



特 1833
77



繪本を圖記七篇卷之八

目録

明季宋濂走令山浦談

日圖

左圖怒大明聖書法

左圖大佛の崩壊と罵詈雑言

明倭伏見の激し烈なる圖

三處心謀を竹筧澤師に計る圖

興義日...

右圖惣て外長三城を夷す人國

明使所退之伏水話

後君小西石田多が飛を倭終人國

右圖書と明の西使と賜人國

明の群臣日本の餽送を見て沈惟敬が仍と為人國

靈松原着去仇國話

日國

繪本右圖記七篇卷之五

明李宗誠密走金山浦

日本文籍に多し大明の万曆二十三年又出たりけり大明の
 和承のふとく日本へ来りて倭李宗誠名副後揚方亭欲し沈
 惟敬名を以て派朝鮮乃三浪江名よ去来より南り日本勢の
 國よ海よりやと伺いされども日本の和承に也平壤の故軍に微心
 て又日本明人の偽りあるを恐る金山浦名の要害を以て砦
 を構へ防禦の体へ堅固にして退くをくもる也又日本大明
 朝鮮の官人多きまづ譯使して石谷日本人の類ひて解
 る志りじとく李宗誠名三人の倭と金山浦名よありしめ
 和承の倭と急ぐと人どもけ耐小西掃守外長と為りて





夏に
浦
金山
と
ま
る
図

真願記
二
女
門
卷
五



真願記
七
屏
卷
五

大地震
法正登城
の圖



法正登城の圖



右岡
大佛の
崩れ
罵る
後
國

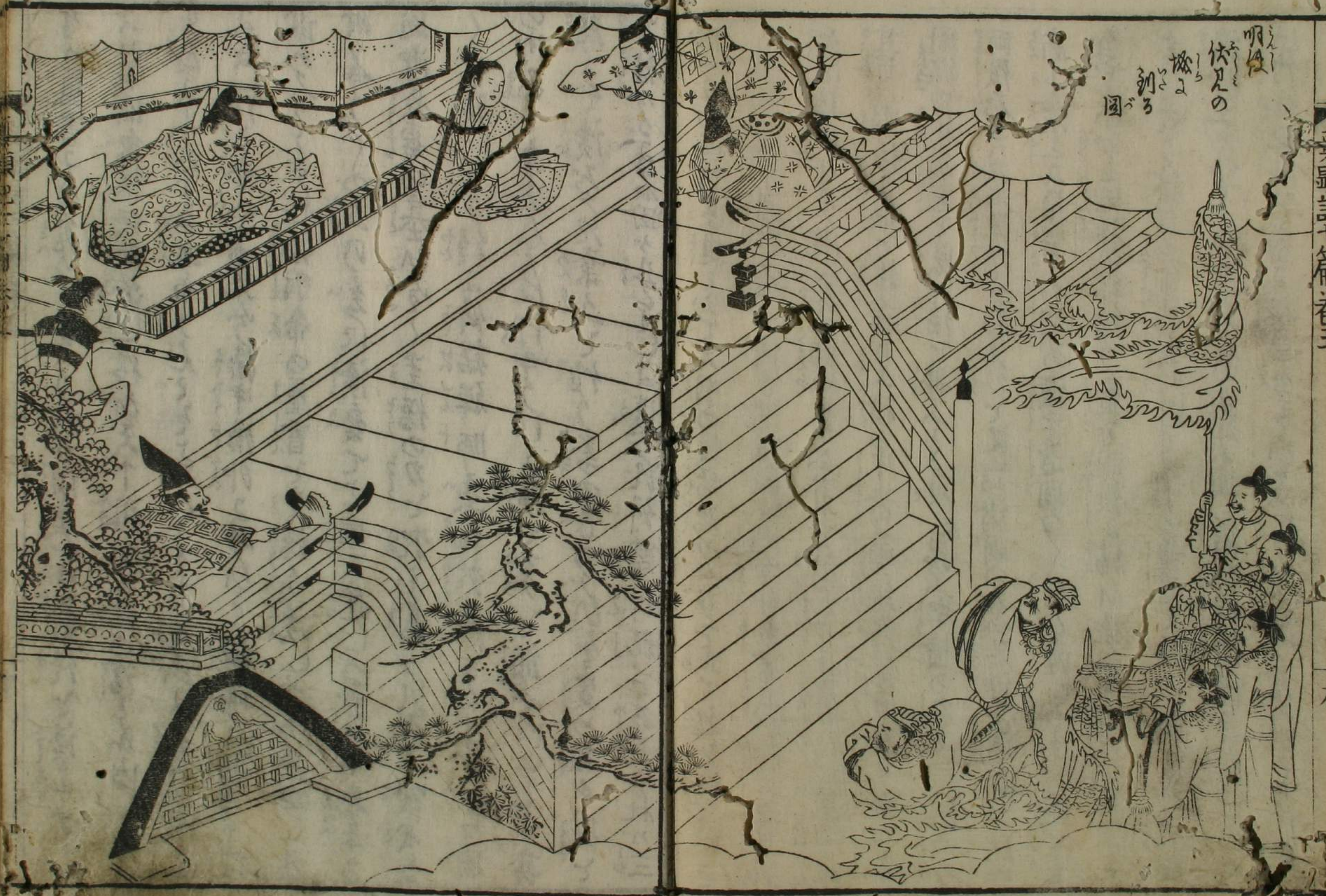
真跡記七卷五

まどりて中流に於ての沖きぐんは神のふゆでとせ給ふ沖を
又傳ふに於て沖怒りも神をせめては沖にしがきれぬと
と沖業まると揚りも難きと云はれ清心は只清と流と
の沖言も得るごまらるの理りところ見へ傳り

左 岡野大明聖書

其聖曰ハきのくは替りるの氣も打移る崩るを
のくるもく系伏見の間にしりてれと左岡の帝の龍
神沖怒ひのふとくも内と遠らまらる沖怒りは加友清心
沖怒る日はの激忠と感し給ふとせらるる沖怒り神をせ給
ひて都まより給ふ大佛の老より給ふ神佛殿と見給ふと
しもの大殿給のむも崩は佛神もやばしや急と碎け

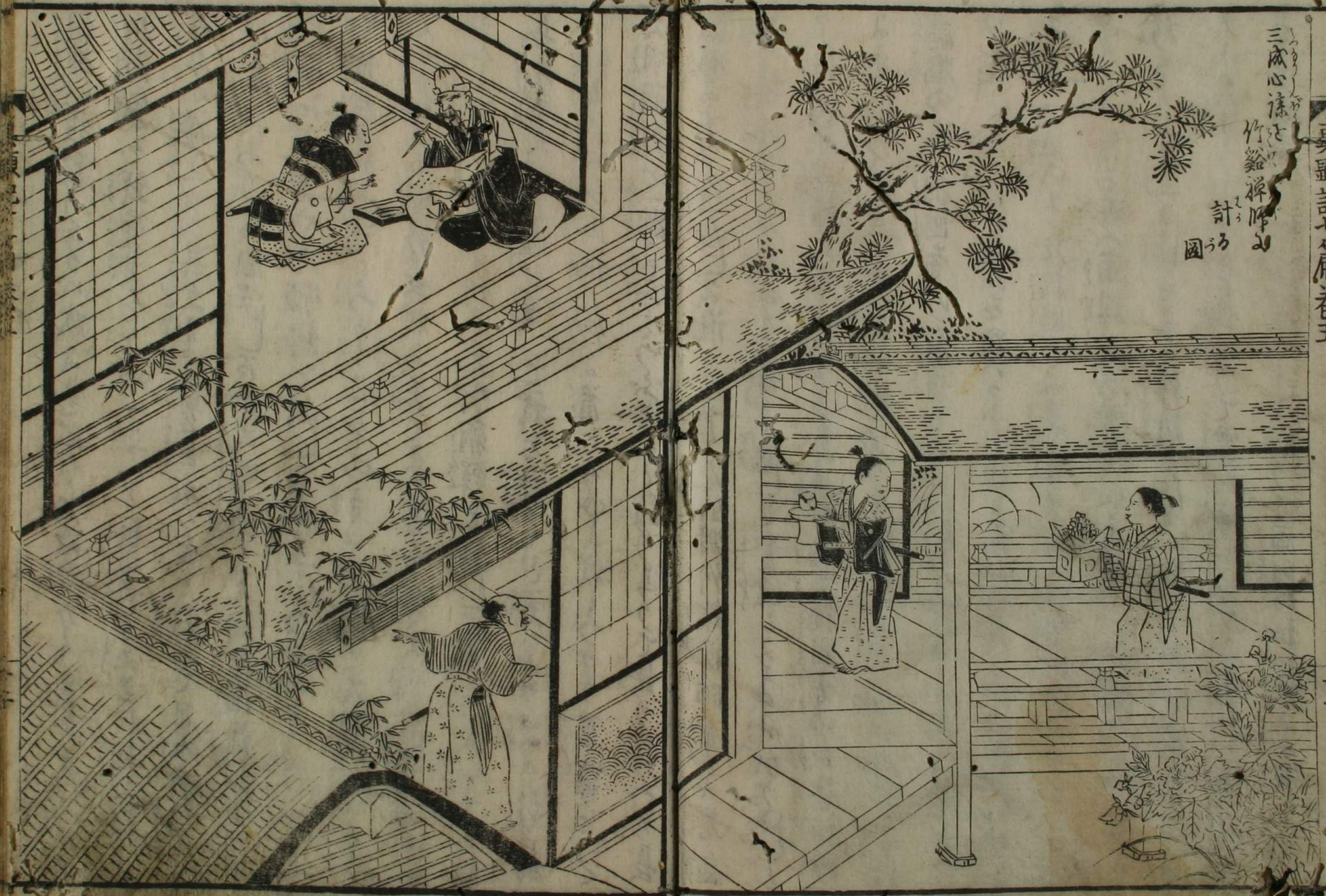
そそる沖沖流し馬より大馬とて罵り給ふの佛像と安
そそるのい國をを平めぬる神も小を大に保つて神
別はけつり世のふか何の殺つこれの人冷るま大佛も
負せし清佛の足隠しよせんと言ひとろとて夫と流流
て佛像も射つけ給ふ沖怒りつらまらるる冷しよ大ね
軍うまを古流をて恐まらるる大馬のあましが年号改元
あて慶長と号し給ふを八月明の揚方亭人と心候し沈惟
敏と副役と号し朝鮮國より黄慎朴弘長名の兩人をお流へ
泉の隈も着船とれ小西外長と云はれ日本の清軍勢の
降國及び發國にして伏見よある明後馬よに蓋とせし
けさせし薬と奏とらるるいん都鄙の美妙集り見らるる



明使
伏見の
松原
初め
國なる

美談七篇卷五

九



真顯証七篇卷五

三成心流
竹給禪師
計
園

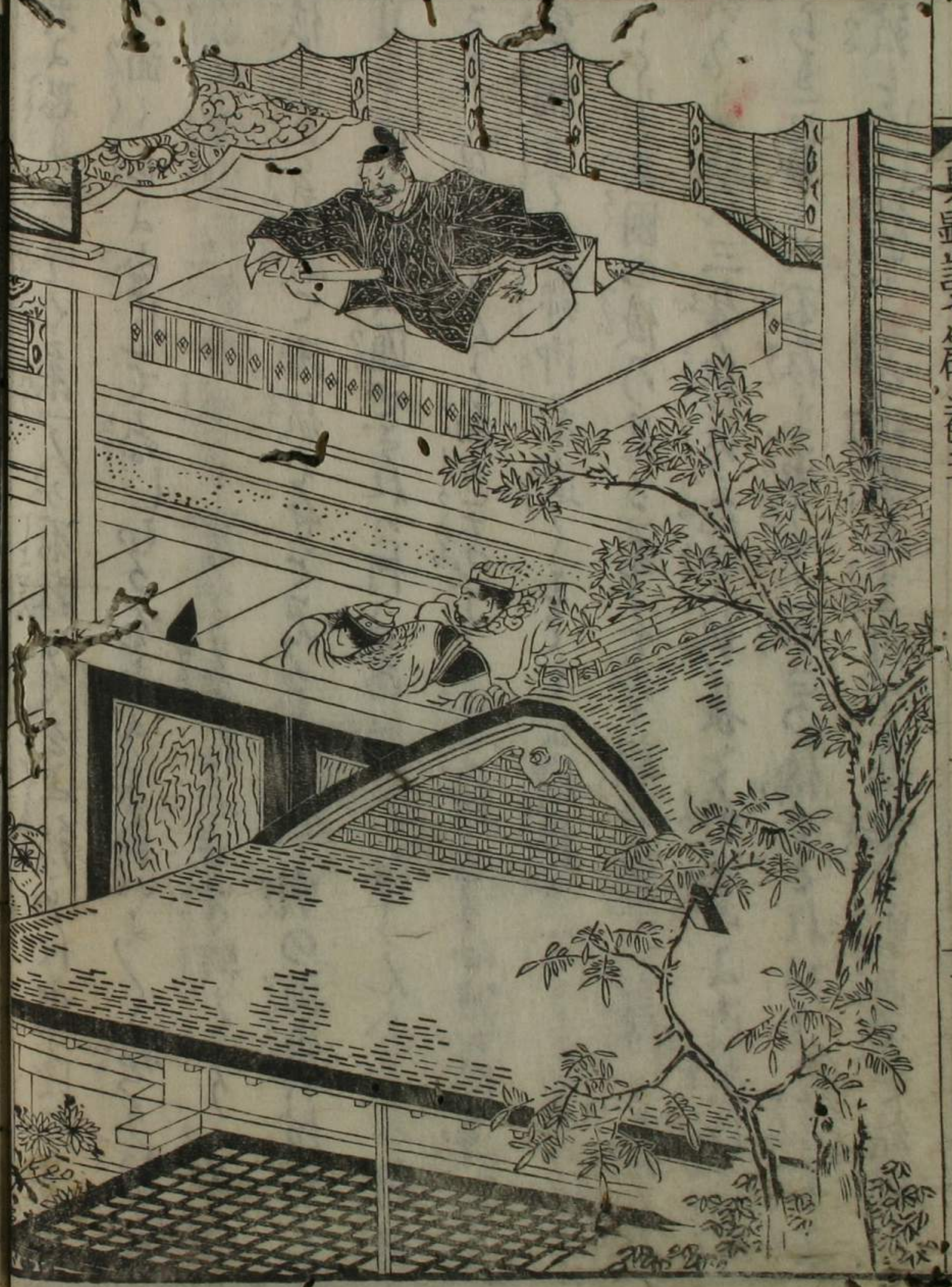
朝鮮の役起りつらうい流は是れなるに次第あり去りて靈三
 和尚安を我學才をうやうさんと爾書と云とげ封と披き
 大寺小漢とつら其文中に豊臣秀吉と封じて日本の國王と
 河を河ありを固ばし百忽大眼圖と見開き面役と云こと
 餘眼に之憎や大明我と封じ日本王と云さんと何ゆそ
 や我武田君と云てつらう日本のもるや何ぞ大明の力と云
 んや先よ小西外長我よ告て秀吉を云て大明の國王と云
 りんとつらう是よふゆ大明朝鮮と許して軍と云しつらう外
 長元来大明よ志と通じて我と欺くと云へつらう外長
 を引物、明の両役と他よ首と云ふ我つらう軍勢と云て
 大明朝鮮と一踏ふつらうと雖つらうて然り然り外長

たよ悲と是全く素一人が不存を云と致と云あつ三身外
 の面く是よ命じておしむる者なり右圖いよく怒りたまひ
 石田増田大右を叱り罵り責め給ふゆ時をうり一層皆
 低段平身致して御教をせと見ら若く明の両役ははやく
 日本の言語と通せざれば何ゆの死にせしやん今かや斬殺
 さらさらりるらんを面を去のてうと云とせつらう心地はし摩惠多
 宰相奉家御沖希進くともと出御勝りのつらうゆと云
 ども英國の役乃見ら希をて奉朝の臣下と誅し給らんゆ
 いうとゆか三身外乃流中外長と云て素よ沖致け候解
 らとゆり其不存と承りや開きの候と云れゆか素と云
 致と云し就中明の両役と先河つと候場り明日奉と礼儀



左閣
好長
三威等
と
後人
國

真顯記七篇卷五



真顯記七篇卷五

十三

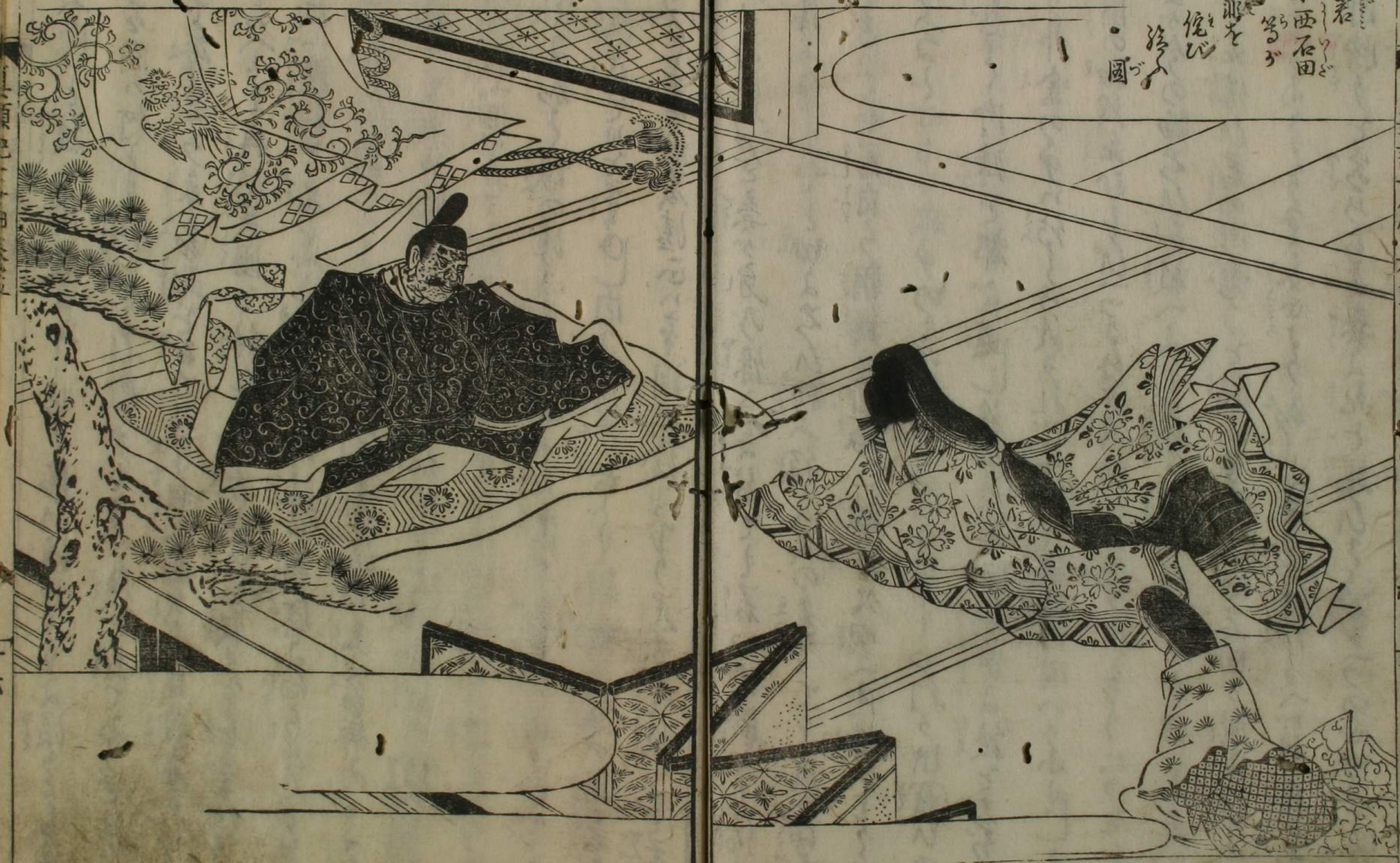
終りんは何のゆゑもしきふ叶ふがたやと謹で言とあり
くろふを岡御氣をと和らげ終ひ海が河小作ひ今日も皆
退き出べ〜とく御座と至せ終へ明の両役をばしめし
小西石田増田大谷虎の腮と免と髯の腰となし心地とて
皆退し〜りりり

明使所退三伏水

け附後君の大坂の機よ押し〜るが左岡御座り源く小西石田木
が罪と得〜りと安し〜らる程よ急船よ返して伏見よあり
終ひ御座に出〜とま〜くよありあ〜せ小西石田の〜が懸り
〜しりび大明御陣の〜に〜すり君泰らに〜しき御座りとか
ろく〜して遠き國よ出陣〜終ひ明軍の御指揮よ心と

若め終ひぬを妻が身の保きよ侍ても若や御殿とも偏
〜終ひゆしやと切よその終ふ程よ人のあ〜りてや〜しと安
け〜らるや君自ら朝鮮よ渡海し源く大明御陣と〜め
終ひぬと心よぬゆ〜と安し〜らるつと〜しつ門くは戦ひの
平ぎ〜御陣と都よ返し終ひぬと朝夕よ後と志ある
より外余のゆい〜らるが三城が渡海の対ひ〜し
西國の新成えむとび〜つは君の御心と安し〜る二つは
妻が今の物よひを救へよと呈〜し〜れと〜し〜し
膝と〜結び君の御座りと祝し〜らる小西石田が罪よ〜ら
皆退し〜らる女心よりぬ〜らるゆ〜らるへが終長三城
は御座りと〜らる妻よ死と場ひ〜らる二つは心や〜らる

後君
小西石田
罪を
悔ひ
終ふ
國



後入しと後と御親と押しつゝ後ハ後と入りな後とつゝ後
 へは古國の何とも仕出さう御つゝしうく種と立て入せ後ハ
 於て摩惠多々家御と立て三を形小西等が罪證きよけり
 ほど入し再び英國と討ん味方の二おと殺さん日本をたぬ
 せば一統記と免とぶき間等て御陣と朝鮮と向らさんそれ
 功と立てけ罪とつゝのふだし御へとせ後ハ家御あぐり
 御附して退き後ハぬきて御知して大明朝鮮の役いあぐり
 泉の場へ退下せと後ハれが揚方亭人沈惟敬人等思と押のき
 殺ぐとぬく坂の津とあり船とたきあり肥前の國とせりり
 喉風と付て日と暮し内と軍兵と朝鮮後海の用と
 ましつゝと加后法い日本國肥後白り思多長政とを

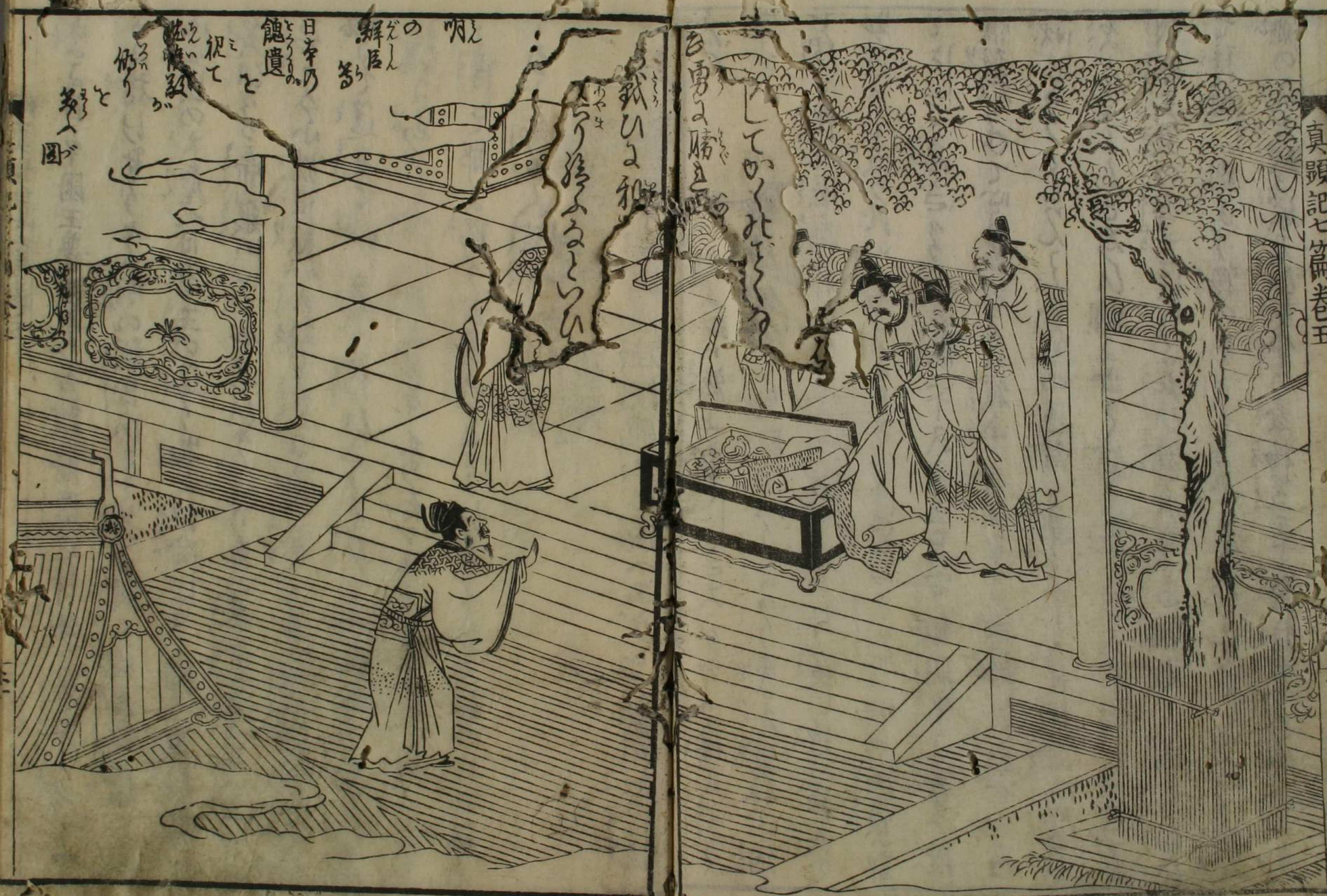
兵軍勢僅とと證しうりたれが揚方亭人が客とをたひ
 行時とつゝ國と海りて高後とせしやく不人寺以志摩守
 御後として古國の御書と明の両後と楊人沈惟敬人と歎び是
 必明國への報書うんといんるをたはらうて朝鮮王と
 表る三ヶ条の罪科と死し後ハそ文の強きい希奉朝鮮國の
 役の官人素朝せしと大明のつゝを源してやとせしつゝ沈
 惟敬人等強と歎き後とて朝鮮二人の王子后妃と下悉く
 免しをりつゝ後ハ小速と奉りて恩を謝せは大明の役を
 納く美慎人朴弘長とたの中後をんて後とつゝ其罪二つ
 日本大明和睦の後と付朝鮮國王万奉表表及禮をんて西
 國と惑し明役の後海返くよ及びけ等のつゝ免件とつゝ後



を 書 ぬ
の と
西 へ
候 へ
湯 場 へ
國 へ

真蹟記七篇卷五

十七



明の解居
日本の
餽遺
祝
多
図

我ひは私
うけりて
あま

あま
うけりて
あま

真頭記七篇卷五

十九

字は日本國王豊臣秀吉所餘遣之什物と云付て、
 又、拵けせりたる明の朝臣の、
 寶國の去産之日本王の送り物、
 英ひたる帝親しくや、
 始りふ沈惟毅人を、
 浦名は、
 と、
 して、
 佐國

我ひは、
 國、
 三百人、
 尺十余人、
 令、
 六箱、
 和國、
 け、
 中、

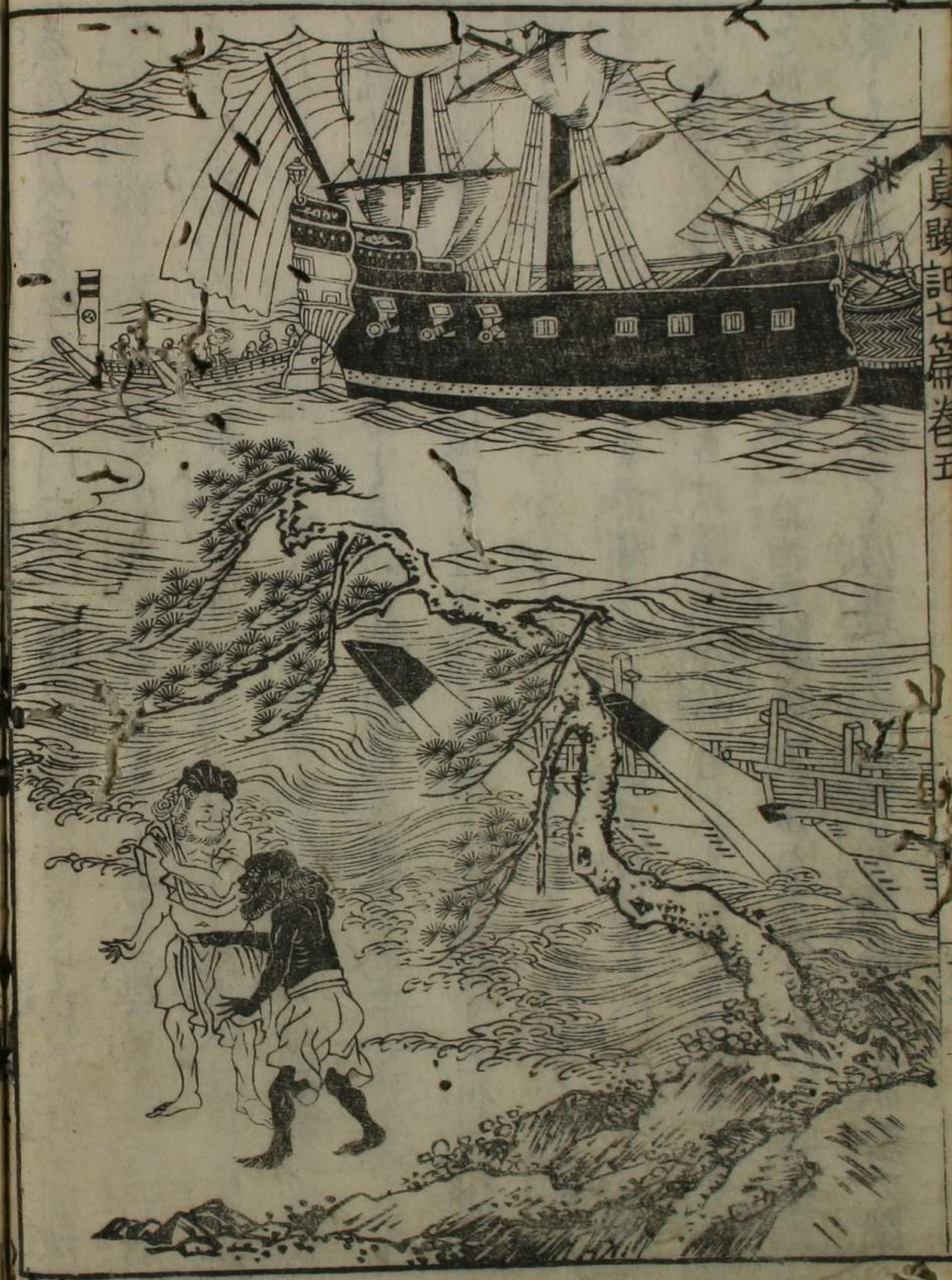
歸てを圖へるるを圖即是と分て禁中及び松家清光諸大
名に揚り元親とは別々張るる教と下されりる叔船工を令じ
て彼船の修理せさせまふ石原百次鶴三を酒百務饅飽
粉又百石衛人の揚り本國の降らじし終る

再朝辭後海定人教

慶長二年正月再朝辭を奏討ぶしとて軍勢の五分と命
じ終る先陣の幕のてく加茂を計取小西松澤守兩人圍とて
て日智りの勅し二陣のま多甲斐守毛利を破守を橋
九郎秋村三郎相良内方又修及臣部を定為り三陣の橋志
摩加守日信信守に陣の志摩國薩摩侍後入陣の長曾
我部宮内少輔池田伊豫守常事を依後守中河馬ちま加

長尾馬込菅原左衛門六陣の勝領加阿波守生駒清波浦坂
中務少輔七陣の後赤中納言源田赤の家安藝守相毛利泰
元と勅し朝鮮金山浦の城の籠る中納言小又川赤秋
これを守り安藝浦の城の橋を近の隆とせり加徳の城の
九流女侍後赤包西生浦の城の朝臣左京右史永是と守
るに別々毛利を後守竹中源次頼見和泉守毛利臣部を
彌又川百馬院徳谷内苑元とて軍を分ち諸大なる別腹
是川刀守と恒せ是員偏頗るく實を以て後進とせしとて軍
を發せ置虎加茂吉秋浦坂安春是とを分ち此に國の軍兵
を加勢とせし勿論諸大なる勅言物して不知るるべし終て文明若大
軍をて援兵とるるさばよく後進とせし我必後進して朝鮮と踏

をんえ
蜜船
とまの
浦
漂着
国



貞騷記七篇卷五

漢(かん) 並(なら) 大明(たいめい) 一(いつ) 時(とき) 又(また) 嘉(か) 然(ぜん) らん(らん) の(の) 蒙(もう) とめ(め) ぐ(ぐ) れ(れ) べ
く(く) 此(こ) と(と) 何(なに) 故(ゆ) ざ(ざ) れ(れ) 多(おほ) 量(りょう) ば(ば) 諸(しよ) 君(くん) 謹(こん) で(で) 命(いのち) と(と) 飲(い) べ(べ) 己(おの) が(が) 國(くに) へ(へ) 退(たい) き
軍(ぐん) 勢(せい) と(と) 壯(さう) 懼(く) 不(ふ) 日(ひ) 又(また) 後(ご) 海(かい) と(と) 比(ひ) し(し) と(と) 其(その) 國(くに) を(を) 匪(ひ) ち(ち) たり



繪(え) 本(ほん) 古(こ) 圖(ず) 記(き) 七(しち) 篇(へん) 卷(巻) 之(之) 又(また) 終(つひ)

